

学校関係者評価報告書

東海医療科学専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人セムイ学園 東海医療科学専門学校 学校関係者評価委員会は「令和4年度 学校自己評価表」の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、下記のとおり報告します。

「学校関係者評価」の実施方法について

学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施し、学校関係者評価委員に評価していただきました。

I 令和5年度 学校関係者評価委員会 開催概要

1. 日 時

令和5年9月9日(土) 17:00～18:30

2. 会 場

リモート会議

3. 議 事

(1) 委員長の選任

(2) 令和4年度 自己評価結果、課題、今後の改善策について

II 学校関係者評価委員、学校担当者

(1) 委員 学校関係者評価委員

学科	構成	氏名	所属
臨床工学科	卒業生父兄	齋藤 友久	医療法人仁聖会 碧南クリニック
臨床工学科	卒業生父兄	林屋 裕二	医療法人聡彩会 あつたモール総合クリニック
臨床工学科	企業等委員 卒業生	山田 賢太郎	医療法人愛誠会 ゆりクリニック名古屋東
理学療法科	企業等委員	池野 倫弘	愛知県理学療法士会
言語聴覚科	企業等委員 卒業生	富田 彰	医療法人羊蹄会 ようてい健康増進クリニック
作業療法科	企業等委員 卒業生	内山 貴博	医療法人 並木会 並木病院
柔道整復科	企業等委員 卒業生	加納 崇希	わかたリハビリデイサービス
社会福祉科	企業等委員	知久 能之	社会福祉法人さつき福祉会

(2) 担当教職員一覧

氏名	所属・職名
藪本 恭明	東海医療科学専門学校 校長
大竹 有二	東海医療科学専門学校 校長代理、教学部長
田中 敏彦	東海医療科学専門学校 教学部長補佐、作業療法科 学科長
中村 新一	東海医療科学専門学校 教学部長補佐、臨床工学科 学科長
三輪 文昭	東海医療科学専門学校 教学部長補佐
太田 晃二	学校法人セムイ学園 法人本部 総務部長

Ⅲ 学校関係者評価委員による意見、提言等

基準1 教育理念・目的

- ・明確な教育理念・目的を掲げてみえるのが理解できました。
学生・保護者への周知が充分でないとのことでしたので、学内行事等にて周知する機会を増やしていただきたいです。
併せて、職員への理念の浸透により教育現場でも理念をさらに反映いただきたいです。

基準2 学校運営

- ・運営会議を定期的実施されており現状や問題点の把握を共有されている。
即時、解決できる問題はなるべく早くに取り掛かるようにして欲しい。
- ・目標を掲げて、理念に基づいた教育をされており専門的な知識向上、人格形成も同時になされている。
将来は患者さん相手の仕事が多いと思われるため弱者の立場に立った対応ができるプロになって欲しいという現場の意見も汲まれている。
- ・入学者全員が卒業して目標を達成することがベストだと思うがスキルアップできない、モチベーションがアップできない学生は他の道へ導いてあげることも教員の役目かなと思う。

基準3 教育活動

- ・教育目的、方針についてはスチューデントマニュアルとして書面化されて周知していることから問題ないと思われる。今後も随時見直し、情勢に則した内容にして進めていってください。
- ・講義の評価として、他科の教員が傍聴を行い講義・講師の質を落とさないようにしているのは良いと思う。可能ならばそのフィードバック方法がわかるとなおよい。
- ・授業の評価について生徒へのアンケートがオンラインでできることは悪くないと思うが、意見の重複や解答しないとも考えられるのでアナログではあるが精査し内容のものを書面で行ったほうが良いかと。選択のみであれば授業後の数分でも行えて確実に回収できる。ただ意見の抽出の場としてオンラインの意見板を用意しておくのもよいのではと。

基準4 学修成果

- ・国家試験合格率としては高い水準を維持し教育の成果が出ていると思います。
学生が目標とする国家資格の取得を達成した後にそれぞれがどのような場で有資格者としての活躍をしているのか、卒業後の動向を把握しにくい現状は改善していきたいところだと思います。動向把握にあたって郵送などでの文書では手間もかかり、住所変更などに対応しにくいと思うので SNS などの媒体を使い仕事の合間でも手軽に回答できるシステムがあれば卒業生との繋がりが保ちやすくなり動向把握がしやすくなるのではないのでしょうか。

基準5 学生支援

- ・課題として、各学科ともに退学率が横ばいになっていることを伺ったが、学生の学力や経済面、心理面によるミスマッチが一定程度は生じてしまうのは致し方ない。しかし、学生の最初の志望動機と実際の臨床現場のイメージとの乖離については、早い段階でのさらなる実習の充実により、学生が成功体験を得ることによって埋めることは可能であると考え。できれば、臨床実習に加えて、インターンシップにより実務経験を詰むことが望ましいが、国試とのスケジュール兼ね合いや、受け入れ先の確保の困難さなど、課題が多いのが実情である。

基準6 教育環境

- ・教育環境に関しては定期的な物品・図書を購入をされており、今後も学生が疑問に思ったときにすぐに体験・調べる事ができる様に引き続き物品の充実ができれば良いかと思えます。
- ・防災面に関しては定期的に防災訓練をされており、教員・学生ともに防災に対する意識が高まっているのではないかと思います。何かと災害の多い時代ですので引き続き災害対策や防災訓練に力を入れてほしいと思えます。

基準7 学生の受入れ募集

- ・今年度の入学志願者数は、高校新卒者が前年度より減少してしまいましたが、高校既卒者の志願者数は平年を上回っていて、学校ホームページなどにより学校案内や選抜方法などを明記してよく努力されたと思えます。
コロナ禍の中よく頑張っていると思えます。
- ・学納金や学費などは妥当なもので評価できると思えます。
- ・学生の受入にあたり学力の選抜基準が妥当かどうか気になります。

基準8 教育の内部質保証システム

- ・本分野に関しては、全般的に適切な対応がされており、改善ポイントも比較的少ないカテゴリとの印象を持ちました。この現状を保つためにも、各種の点検・評価をより丁寧に実施し、新たに表出した課題に関しては、成果重視のスタンスで具体的な改善対応を進めていくことが望ましいと感じました。

基準9 財務

- ・予算通りにほぼ決算されており適正に管理運営されている。
運用資産、収支差額は順調にアップしており、補助金など外部資金は適正に確保されている。
- ・無駄をなくし効率よく物資を管理しコストダウンをされている。
整理整頓することで何がどれだけどこにあるかが把握できる。
財務に関しても外部を交え定期的に会議され、管理されている。

- ・校舎の外観、看板（サイン）は学校選択の大きな要因かと思われるため検討して欲しい。

基準 10 社会貢献・地域貢献

- ・このコロナ渦で行えることは限られているが、その中でも可能な限り行っているように思います。
- ・今後、コロナが落ち着いてきた際には今まで行ってきたようなボランティア活動等を行えるような対応、またはさらに進んだ活動が行えるような支援を期待しています。

以上、評価委員より示された提言等については、所管部署においてこれを踏まえ改善策を検討するものとする。